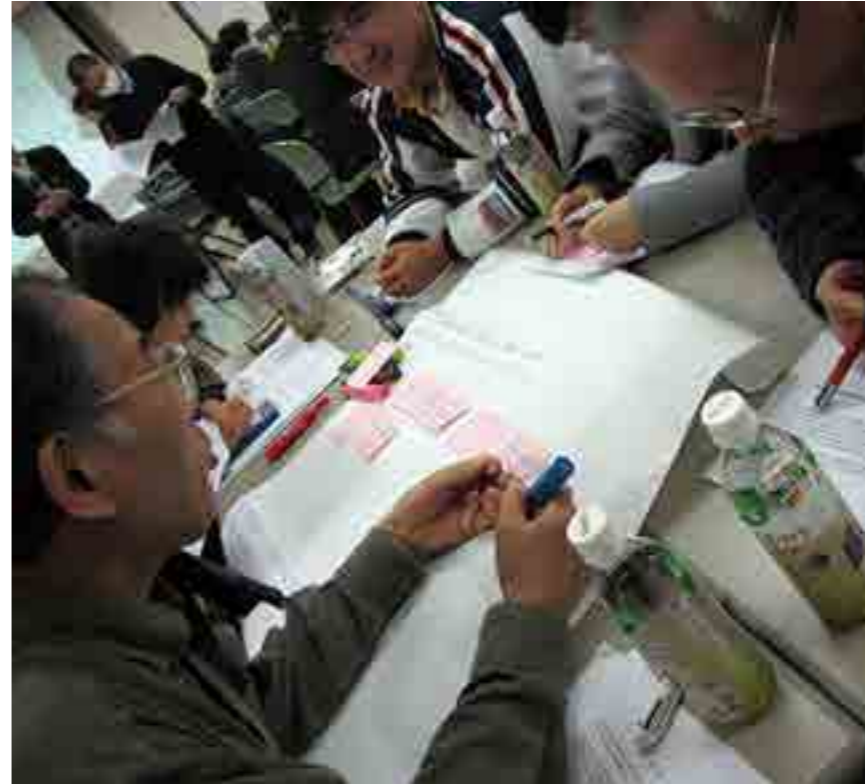




「俳句とうたのまち」活動として通学路に貼られた名句。大人も子どもも口にしやすい名句や名歌が選ばれている



毎年開催される「高齢者ふれあい広場」。高齢者と保育園児が遊んだり、食事をしたりして楽しむ



認知症の人を地域で支える人材を育成するサポートリーダー研修。より詳しい知識と対応法などを学ぶ



託麻原校区自治協議会の林田國夫会長(右)と託麻原校区社会福祉協議会濱和子会長(左)

託麻原校区 (平成25年4月現在)
人口計:16,538人
世帯数:8,514世帯
町内自治会数:14

が必要で、誰もが安心して住めるまちづくりをもっと進めたい」と話してくれました。

情緒豊かな子どもを名句を通じて育てる子ども

たちの心を育てる活動も校区では取り組むテーマの一つです。託麻原校区で「俳句とうたのまち」の活動にも取り組んできました。これは、子どもたちの通学路の各所に、だれもが知っている名句などを色紙大に書いたものを貼って、通学する子どもたちに親しんでもらおうというものです。この活動に携わる林

田会長は「教育は人間の原点だと思えます。次の世代を担う子どもたちには情緒豊かな大人に育ってほしい。それを手助けするのがわれわれの務めです」と語ります。子ども時代に覚えた俳句や短歌は、一生忘れないもの。大人になって自然と俳句や短歌が脳裏に浮かぶことで、託麻原で学んだ思い出がいつまでも残っていてほしいという願いが込められています。

子どもから高齢者まで、みんなが見守り合う温かい絆づくりが、いつまでも「いきいき」と暮らせるまちづくりにつながっています。

一方で、古くから住む人たちの高齢化も課題の一つ。林田さんは「戦後最初に住み始めた人たちは、すでに80歳以上となっています。中央区の他校区と同様、高齢化率はかなり進んでいると言えます」と校区の現状を分析してくれました。

託麻原校区では、高齢化問題の中でも地域ぐるみの認知症対策に積極的に取り組んできました。平成23年に社会福祉協議会が中心的役割となり「高齢者地域支え合いネットワーク」を発足。徘徊者対策など、認知症の高齢者に対応していくために、リーダー研修や事例検討会、認知症介護家族の集いなどを行っています。社会福祉協議会の濱和子会長は「校区のさまざまな団体がネットワークに参加・協力いただいたことで、平成23年と平成24年に校区での徘徊模擬訓練が実現しました。徘徊高齢者の発見から保護、さらには関係機関への連絡など、実践的な訓練を行うことができました」と話します。

高齢者の見守りのためには、住民一人ひとりの協力も重要です。そのために、平成25年に、託麻原小学校から配信される「安心メール」に、徘徊者情報を流すようにしました。メール配信には、小学校PTAだけでなく地域の人も加入。通常配信されている、危険防止や注意を呼びかけるメールに徘徊者情報も流すことで高齢者の見守り、徘徊者の捜索、声掛けにつながっています。

また、災害時や救急時に病歴や服用薬などの情報をいれておく「命のバトン」事業にも参加。校区内の事業者や自治会から募金を集め、独居高齢者、高齢者夫婦などに配布しました。

濱さんは「万が一に備え、校区の人の健康や福祉を幾重にも見守ることで、福祉のまちづくりに努力したい」と語り、林田さんは「赤ちゃんからお年寄りまで、みんなが『このまちに住んで本当によかった』と感じてくれるためには、いろんな世代が互いに支え合うネットワーク